

作業がしやすい樹形で規模拡大！

～日本なしの省力樹形視察研修会を開催～

千葉農業事務所改良普及課 令和4年6月27日発

八千代市では、日本なしが 53h a栽培されています。近年は天候不順や市内梨農家の廃業により地域全体の生産量が減少し、なしの供給量が不足しているため、生産量の増加に向けて規模拡大を目指す農家が出てきています。

規模拡大には、作業負担が少ない樹の形(省力樹形)にすることが有効であることから、千葉農業事務所では、省力樹形の導入を支援するため、6月8日になし省力樹形視察研修会を開催しました。当日は4名が出席し、市原市農業センターの流線形仕立て栽培と市原市・白井市のジョイント仕立て栽培を見学しました。視察先では、ほ場の管理方法について出席者から活発に質問が出され、省力樹形の種類と管理方法の違い、栽培上の強みと弱みについて学びました。

今後も千葉農業事務所では、規模拡大に向けたなし農家の取組みを支援していきます。



流線形仕立ての説明を受ける生産者



ジョイント仕立てを見学